

2012年10月 開館！



ヒューマン ドキュメンタリー 映画館 日比谷

—いせフィルム作品セレクション—

会場 日比谷図書文化館

「ヒューマンドキュメンタリー映画」を知っていますか？

人々の営みに焦点をあて、時間をかけて、
かけがえのない「いのち」に向き合う映像記録……

伊勢真一監督作品をはじめとするいせフィルムのヒューマンドキュメンタリーを
東京のど真ん中、日比谷図書文化館で毎月観てもらおうシリーズを企画しました。

毎回ゲストを迎えての監督トークもやります。

「感じ」「思い」「考える」……

ヒューマンドキュメンタリー映画を見ることは、自分自身を深める体験です。

スクリーンにはあなた自身が写りこんでいるはずです。

2012年 10/3 (水)	14:30 (開場14:00)	『傍(かたわら)～3月11日からの旅～』 (伊勢真一作品)	★16:30～トーク 細谷亮太(小児科医) 伊勢真一(かんとく)	¥2,000-
	18:30 (開場18:00)	『傍(かたわら)～3月11日からの旅～』 (伊勢真一作品)		¥1,500-
11/21 (水)	14:30 (開場14:00)	『大丈夫。—小児科医・細谷亮太のコトバー』 (伊勢真一作品)	★16:00～トーク 戸井十月(作家) 伊勢真一(かんとく)	¥2,000-
	18:30 (開場18:00)	『ツヒノスミカ』(山本起也作品)		¥1,500-
12/19 (水)	14:30 (開場14:00)	『大きな家～タイムグラの森の子どもたち～』 (澄川嘉彦作品)	★16:30～トーク 澄川嘉彦(映像作家) 伊勢真一(かんとく)	¥2,000-
	18:30 (開場18:00)	『風のかたち—小児がんと仲間たちの10年—』 (伊勢真一作品)		¥1,500-

*小学生以下、障がい者の方は500円割引いたします。

*予定は変更になる場合があります。詳細はいせフィルムHPでご確認ください。

会場 日比谷図書文化館 B1F日比谷コンベンションホール

主催：いせフィルム クロスフィット
協賛：エーザイ株式会社
協力：こたつシネマ ハヤチネプロダクション MOCプロジェクト
問合せ：いせフィルム TEL 03-3406-9455

お申し込みは
メール・FAXで……。
くわしくは裏面へ

映画は観客と出会い はじめて映画になる……

ヒューマンドキュメンタリー映画館 日比谷 (2012年10月3日/11月21日/12月19日)

傍(かたわら) ～3月11日からの旅～

東日本大震災の私的な映像記録。宮城県亘理町に暮らす友人のミュージシャン、苔米地サトウの安否を訪ね、カメラの旅は始まった。3月11日からの旅……。被災地の、被災者の傍らでの1年。おらずとカメラを回し続けながら得た確信は、「いのち」を生きるほうへ向かうという希望。
出演：苔米地サトウ 演出：伊勢真一 (2012年/115分)



このテーマは暗くなりがちで、自分とは遠い問題だから避けたいと思っていましたが、実際の映画を観てそうではないと思いました。(アンケートより)

大丈夫。 ～小児科医・細谷亮太のコバー

40年間近くにわたって小児がん治療の最前線に立ち続けてきた医師・細谷亮太の10年間の発言記録と、俳人・細谷唖々として、「いのち」のことを詠み続けた作品の数々を紹介しします。『風のかたち』の姉妹編にあたる、俳句で綴るヒューマンドキュメンタリー。
“雛菓子の 血の色 医者をやめたき日” 唖々
出演：細谷亮太 演出：伊勢真一 (2011年/85分)
2011年キネマ旬報文化映画ベスト・テン第1位



いせさんのフィルムは、日々の忙しさの中で、つい忘れてしまう。人とのつながりの大切さ、美しさ、自然の力強さ、生きることのたてについて、思い出させてくれるチカラがあります。(アンケートより)

ツヒノスミカ

10数年前にいちやんを亡くし、ずっとひとりで暮らしてきたばあちゃんが、突然、寂しいと言った一やがで家族は決断し、古い家を取り壊して同居できる新しい家を作って直すことになった。解体される家、ひとつの物を捨てる度に一つの時間が消えてゆく。ひと夏の小さなレクイエムが詩われる。ヨーロッパ各地でも絶賛された、静謐なるドキュメンタリー。
監督：山本起也 (2006年/80分)
スペイン・ブント・デ・ヴィスタドヒューマンドキュメンタリー映画祭 最優秀監督賞



マツさんの素朴さはどこもなく自分の祖母に姿がかぶりました。きっと日本人の多くの人が同じ気持ちになるのではないかと思います。(アンケートより)

大きな家 ～タイムグラの森の子どもたち～

早池峰山のふもとの森で、東京から移り住んだ子どもたちが、自然に育まれる日々を7年間記録したドキュメンタリー。四季の巡りの中で、生きとし生けるものの「命」が描かれます。「わたしたち大きな家にすんでるんだね」子どもたちにとって、森のすべてが大きな家、その仲間たちは同じ「生き物どうし」なのです。
『タイムグラばあちゃん』の続編。
監督：澁川嘉彦 (2009年/107分)



子ども達を見ていてとても楽しかったです。あの頃のがんが沸きあがってきました。自然の中で学べることは本当に沢山あるのだからと改めて思いました。(アンケートより)

風のかたち ～小児がん仲間たちの10年～

病気を体験した子どもたちが、弱さを強さに変えていく姿。医師やボランティアたちが、病気の子どもとかかわることで、力を得ていく姿。にんげんの生きる力、希望のようなもの……。
演出：伊勢真一 (2009年/105分)
文化庁映画賞優秀賞 日本カトリック映画賞
キネマ旬報文化映画ベスト・テン第3位



必要以上に感動シーンを盛り込んだドラマなんかよりも、もっと訴えかけられたことが多かった。(アンケートより)

いせフィルム

ヒューマンドキュメンタリー映像作家の伊勢真一作品を中心に企画・製作・上映を手がける。阿倍野、花巻、大倉山などで独自の映画祭を開き、若手作品のプロデュースも積極的に手がけている。

<http://www.isefilm.com>

伊勢真一(映像作家)

49年東京都生まれ。映像作家。『奈緒ちゃん』『ありがとう』『えんとこ』『朋あり』『白い花はなぜ白い』『ゆめみたか』『風のかたち』をはじめ、多くのヒューマンドキュメンタリーを製作。

トークゲスト

■10月3日(水)

細谷亮太(小児科医)

48年山形県生まれ。
72年東北大学医学部卒業。70年代にテキサス大学総合がん研究所に就任、最先端の医療を学ぶ。現聖路加国際病院小児科部長。俳人としての活動も旺盛。
近著は『医者泣くということ』(角川書店)

■11月21日(水)

戸井十月(作家)

48年東京都生まれ。
武蔵野美術大学商業デザイン科中退以降、イラストレーター、ルポライターとして活躍。ドキュメンタリーディレクター、映画監督としての顔も持つ。
1997年よりバイクによる5大陸走破の旅を始め、2009年11月走破した。株式会社喜望峰代表。

■12月19日(水)

澁川嘉彦(映像作家)

63年広島県生まれ。
NHK勤務を経て、99年岩手県タイムグラに移り住む。2004年映画『タイムグラばあちゃん』を発表。09年に子どもたちの森での暮らしを記録した『大きな家』を完成。ハマチネプロダクション代表として東北をベースに様々な映像作品を手がけている。

千代田区立日比谷図書文化館 (千代田区日比谷公園1番4号)

- 東京メトロ 丸の内線・日比谷線・千代田線「霞ヶ関駅」C4・B2出口より徒歩約5分
 - 都営地下鉄 三田線「内幸町駅」A7出口より徒歩約3分
 - 東京メトロ 千代田線・日比谷線「日比谷駅」A14出口より徒歩約7分
 - JR「新橋駅」日比谷口より徒歩約12分
- ※専用の駐車場はありません。日比谷公園地下公共駐車場をご利用ください。
※上映内容についてのお問合せは日比谷図書文化館ではなく、右記お申し込み窓口宛にお願いいたします。



— お申し込み —

メールまたはFAXにて
ご希望の日、時間、作品名
お名前、電話番号、人数をお伝えください。
チケット代は当日受付でご精算ください。

いせフィルム

FAX : 03-3406-9460

e-mail : ise-film@rio.odn.ne.jp
渋谷区渋谷1-3-7 青山N-ブリックビル3F

<http://www.isefilm.com>